

じょうきょうぼんたい まんだら
貞享本當麻曼荼羅修理完成記念 特別展

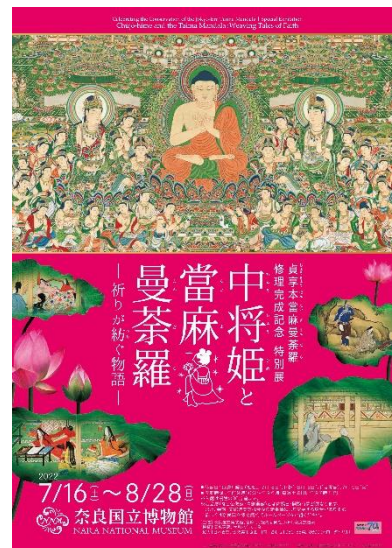
ちゅうじょうひめ たい まんだら つむ
中将姫と當麻曼荼羅—祈りが紡ぐ物語—

2022 年 7 月 16 日（土）～8 月 28 日（日） 会場：奈良国立博物館 西新館

奈良・當麻寺の本尊である綴織當麻曼荼羅（国宝、當麻寺蔵）は、およそ 1250 年前に現れた奇跡の曼荼羅として尊ばれてきました。そして、極楽浄土の様子を表す曼荼羅の成立に、極楽往生を望んだ奈良時代の貴族の娘である中将姫が関わったという伝承は、鎌倉時代から現在にいたるまで、広く知られています。

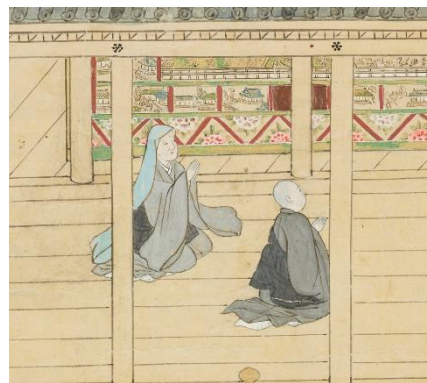
當麻曼荼羅と中将姫への長い信仰の歴史のなかで、およそ 4 メートル四方の巨大な織物である綴織當麻曼荼羅の絵画による写しが多数描かれてきました。中世以降、縮小版が多数作られた一方、同じ大きさの写しも製作されています。そのような中で、最も詳細に綴織當麻曼荼羅の図様を伝え、鮮やかな色彩で描かれた名品が、江戸時代の延宝 7 年（1679）に描かれ、貞享 3 年（1686）に靈元天皇の宸筆を得て完成した、貞享本當麻曼荼羅（重要文化財、當麻寺蔵）です。

本展では、修理を終えた貞享本の美しい姿をご覧いただき、修理過程で確認された資料を紹介しながら、貞享本製作プロジェクトの全貌をお示しします。そして貞享本の製作を當麻曼荼羅信仰史のひとつの画期と捉え、周辺の當麻曼荼羅信仰や、連動する中将姫信仰の動向についても、くわしくご紹介します。日本一の靈像として信仰され続けてきた當麻曼荼羅と、女人往生の主人公として長く愛されてきた中将姫が人々に尊ばれ、そして人々を救ってきた歴史に触れていただければ幸いです。



中将姫物語（あらすじ）

奈良時代、貴族の娘として生まれた中将姫は、美しく清らかな心をもつ女性であった。しかし実母の死後、継母に疎まれ山中で殺害されそうになる。純粋な中将姫は助けられ山中で育つが、偶然父と再会し都に戻る。その後中将姫は當麻寺で出家。極楽浄土への思いを募らせていると、阿弥陀如来と観音菩薩の化身が現れ、蓮糸で當麻曼荼羅を織りあげ中将姫に極楽の姿を示す。そして中将姫は 29 歳のとき阿弥陀の来迎を受け無事極楽へ往生する。



當麻寺縁起 巻下（部分）

開催概要

展覧会名：貞享本當麻曼荼羅修理完成記念 特別展「中将姫と當麻曼荼羅一祈りが紡ぐ物語ー」

会期：2022 年 7 月 16 日（土）～8 月 28 日（日）

会場：奈良国立博物館 西新館（奈良市登大路町 50）

休館日：毎週月曜日（ただし、7 月 18 日 [月・祝]、8 月 15 日 [月] は開館）、7 月 19 日 [火]

開館時間：午前 9 時 30 分～午後 6 時（毎週土曜日は午後 7 時まで）※入館は閉館の 30 分前まで

※「名品展」（なら仏像館・青銅器館）とは休館日・開館時間が異なります。

※会期・開館時間等は今後の諸事情により変更する場合があります。詳しくは奈良国立博物館公式ホームページをご覧ください。

観覧料金：一般 1,600 円（1,400 円）、高大生 1,000 円（800 円）、小中生 500 円（300 円）

※（ ）内は前売料金です。

※ 前売券の販売は、2022 年 5 月 23 日（月）～7 月 15 日（金）です。

販売場所：当館観覧券売場（休館日は販売いたしません）、近鉄主要駅、ローソンチケット、チケットぴあ、イープラス、セブンチケットなど

※ 未就学児および障害者手帳またはミライロ ID（スマートフォン向け障害者手帳アプリ）をお持ちの方（介護者 1 名含む）は無料です。

※ 本展の観覧券で、同時期開催の「わくわくびじゅつギャラリー」（東新館）、「名品展」（なら仏像館・青銅器館）もご覧になれます。

※ 奈良国立博物館キャンパスメンバーズ会員（学生）の方は 400 円、同（教職員）の方は 1,500 円で当日券をお求めいただけます。観覧券売場にて学生証または職員証をご提示ください。

主催：奈良国立博物館、當麻寺、読売新聞社、NHK 奈良放送局

協賛：清水建設、大和ハウス工業

協力：日本香堂、仏教美術協会

お問合せ：050-5542-8600（ハローダイヤル）

奈良国立博物館公式ホームページ：<https://www.narahaku.go.jp/>

展覧会公式 Twitter：@cyujohimeten22

【第1章 靈宝・當麻曼茶羅^{たい まん だ ら}と中將姫^{ちゅうじょうひめ}の物語】-----

當麻寺の靈宝・當麻曼荼羅は、奈良時代に安置されて以降、長く信仰の対象となってきました。當麻寺には、奈良時代に安置された根本像である綴織當麻曼荼羅^{つづれおりたい ままん だら}、室町時代に作られた文亀本當麻曼荼羅^{ぶんきほん}、江戸時代に作られた貞享本當麻曼荼羅^{じょうきょうほん}の三つの曼荼羅が現在も伝わっています。その信仰は、綴織當麻曼荼羅の製作主体を「中将姫」と呼ばれる奈良時代の貴族の娘とする物語とともに長く続いていきました。



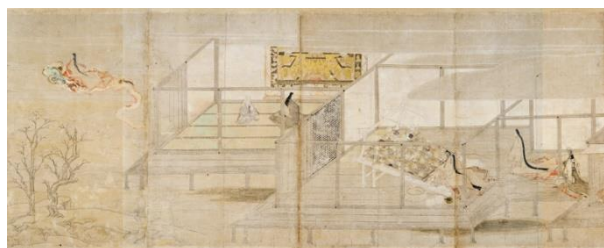
現存最古の中将姫像。剃髪した出家後の姿で、袈裟をまとい、念珠を手にして合掌する。前の机に置かれた経巻は、中将姫が書写したと伝えられる『称讃浄土経』とみられる。また画面上方は見えにくくなっているが、中将姫を迎え極楽へと戻る阿弥陀聖衆の一行が描かれ、色紙形の最後には中将姫が往生した日（宝亀6年3月14日）が記されている。

中將姫像(ちゅうじょうひめぞう)
鎌倉時代(14世紀)
奈良・當麻寺中之坊【通期】



當麻寺本堂に安置される国宝當麻曼荼羅厨子の扉。現在は取り外され別置保存されている。奈良時代末に安置された厨子に、鎌倉時代の仁治3年（1242）に取り付けられた扉で、黒漆塗に蒔絵を施し蓮池をあらわす美しい品である。下方には多くの結縁者の名前が記され、僧侶のみならず、源頼朝、北条泰時といった武家の有力者、九条教実ら公家の有力者を含む多数の僧俗男女が結縁しており、歴史史料としても貴重。

国宝 當麻曼荼羅厨子扉(たいままだらずしとびら)
鎌倉時代 仁治3年(1242)
奈良・當麻寺【通期】



當麻寺の本尊である綴織當麻曼荼羅の成立に関する縁起説話を題材にした現存最古の絵巻物。當麻寺の草創について簡略に触れた上で、出家した一人の貴族女性（のち中将姫と呼ばれる）の前に、阿弥陀の化身の尼と、観音の化身の織女が現れ、蓮糸で巨大な曼荼羅（綴織當麻曼荼羅）を織り上げたという話を、大画面を用いて表す。

国宝 当麻曼荼羅縁起(たいまんだらえんぎ)
鎌倉時代(13世紀)
神奈川・光明寺【半期展示替】

【第2章 二大當麻曼荼羅^{たいままだら}の修理と貞享本^{じょうきょうぼん}の製作—江戸時代の大プロジェクト】-----

江戸時代の延宝5年(1676)、高誉上人^{こうよしやうじん}性愚^{しやうぐ}という京都の僧が當麻寺を詣で、綴織當麻曼荼羅の保存状態を嘆いて修理を企図し、これを発端に綴織當麻曼荼羅と室町時代の文亀本當麻曼荼羅の修理、続いて貞享本當麻曼荼羅の製作を行う一大プロジェクトが始まります。貞享本は貞享3年(1686)に靈元天皇^{しんげん}の宸筆^{しんぴつ}を得て完成しましたので、およそ10年がかりのプロジェクトとなりました。この前後の時期は、當麻曼荼羅図像の研究が浄土宗を中心に盛んに行われ、貞享本の図像は最も根本曼荼羅に近く信頼できるものとして重視されました。

最近行われた綴織、文亀本、貞享本の三つの曼荼羅の修理によって、曼荼羅の軸に納められた文書類が発見されました。それらからはこのプロジェクトに関わった人々の熱量が伝わってきます。



江戸時代の貞享3年(1686)に完成した當麻曼荼羅。當麻曼荼羅とは、當麻寺の根本本尊である綴織當麻曼荼羅(8世紀)の図様を写す曼荼羅の総称で、中央に極楽浄土、周囲に『観無量寿経』の内容を表す画面構成である。本図は根本本尊の図様を最もよく伝える同大の曼荼羅で、近年の修理により色とりどりの彩色が一層鮮やかになった。修理時に軸木内から発見された文書類や、周辺の関連史料から描かれた経緯も明らかで、京都・大雲院の僧性愚^{しやうぐ}が、綴織當麻曼荼羅、室町時代の写しである文亀本當麻曼荼羅の修理を行ったうえで作らせ、當麻寺に納めたことが知られる。

重要文化財 當麻曼荼羅(たいままだら)(貞享本(じょうきょうぼん))

江戸時代 貞享3年(1686)

奈良・當麻寺【通期】



中将姫は綴織當麻曼荼羅に関する縁起説話に登場する奈良時代の貴族女性で、曼荼羅は姫の強い思いを受けて奇跡的に出現したと伝えられる。この中将姫像は、綴織、文亀本の修理を経て、貞享本當麻曼荼羅を作らせた大雲院の性愚^{しやうぐ}が、一連の事業が一段落した時期に作らせた。厨子扉には縁起説話を題材にした絵画が描かれている。

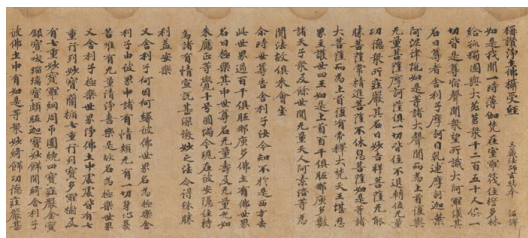
中将姫坐像(ちゅうじやうひめざぞう)(厨子入(ずしいり))

江戸時代 延宝9年(1681)

京都・大雲院【通期】

【第3章 中^{ちゅうじょう}将^{じょう}姫^{ひめ}の宝物と信仰の広がり】-----

中将姫の物語は、當麻曼荼羅とともに広く知られるようになり、中将姫が書写したとされる経典『称^{しょう}讃^{さん}浄^{じょう}土^ど経^{きょう}』（称^{しょう}讃^{さん}浄^{じょう}土^ど仏^{ぶつ}摂^{せつ}受^{じゆ}経^{きょう}）や、中将姫が繡^{かたく}ったとされる刺繡^{ししゅう}の仏画など、中将姫に託^{たく}された宝物が登場するようになります。また、中将姫に対する阿弥^{あみ}陀^だの来迎^{きらいこう}の場面を演劇的に再現する當麻寺の練^{ねり}供^く養^{よう}（迎^{むか}講^{こう}）という儀式が注目されたり、中国から渡ってきた黄^{おう}檠^{ぎょう}宗^{そう}の僧^{そう}が當麻曼荼羅を再評価したり、中将姫を意識して蓮糸^{れんし}を用いた藕^{くし}糸^{おし}織^{おり}が作られるなど、近世には、様々な中将姫再評価の動向がありました。



称讃浄土仏摂受経

（しょうさんじょうどぶつせつじゅきょう）

奈良時代（8世紀）

奈良・當麻寺奥院【半期】

『阿弥^{あみ}陀^だ経^{きょう}』の異訳で、釈迦^{しやくか}が阿弥^{あみ}陀^だの西方極樂浄土への往生を勧める内容。當麻曼荼羅の縁起説話で中将姫が一千巻のこの経典を書写したとされたことから、現存する経典のほとんどは中将姫ゆかりの靈宝として伝わる。本来は天平宝字7年（760）に光明皇后の四十九日の忌^き日に当たって大量書写された写経であったと考えられる。



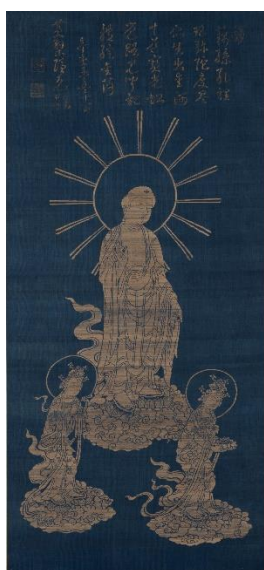
重要文化財 刺繡阿弥陀三尊来迎図

（ししゅうあみださんぞんらいごうず）

鎌倉～南北朝時代（13～14世紀）

滋賀・宝厳寺【半期】

刺繡で表された阿弥^{あみ}陀^だ三尊来迎^{さんぞんらいこう}図。中世には、主に死者の供養のためにこうした繡^{かたく}仏^{ぶつ}が多数作られたが、その多くは中将姫作と伝承されて後世に伝えられた。本図もその一つで上方や周囲に梵字を表す構成も興味深いが、下方に尼と女性が手を合わせ向かい合うさまが表されていることから、製作時に中将姫説話が意識された可能性がある。



藕糸織阿弥陀三尊来迎図（くしおりあみださんぞんらいごうず）

隠元隆琦賛

江戸時代 寛文11年（1671）

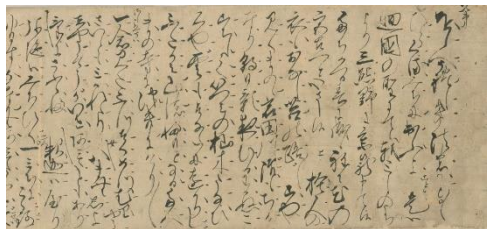
福岡・福聚寺【半期】

北九州市の黄檗宗寺院である福聚寺に伝わる蓮糸織^{れんし}り（藕^{くし}糸^{おし}織^{おり}）仏画の一つ。福聚寺を創建した小倉藩初代藩主小笠原忠真の側室であった永貞院^{えいてい}が、中将姫に私淑^{ししゆく}して作らせた。賛者の隠元隆琦^{いんげんりゅうき}は黄檗宗の開祖で、福聚寺初代住職即非如一^{そくひにょいつ}の師。

近年の調査で実際に蓮糸が織り込まれていることがはじめて確認されており、年代が明らかな最古の藕糸織作品として貴重な存在である。

【第4章 中将姫イメージの変遷―芸能のなかの中将姫】-----

當麻曼荼羅信仰の広がりや奇跡の物語の主人公・中将姫の存在によって支えられたといえますが、中将姫の物語は、継子いじめの物語を含んで説話としての魅力をもち、能や狂言、さらには浄瑠璃や歌舞伎といった芸能の世界でリメイクされ、さらに広く一般に知られるようになりました。



金春禪鳳自筆本「當麻」
(こんばるぜんぼうじひつぽん たえま)
室町時代(16世紀)
東京・法政大学能楽研究所般若窟文庫【半期】

世阿弥作と考えられる能「當麻」の写本。書写した金春禪鳳(こんばるぜんぼう)(1454-?)は、応仁の乱後の能界を代表する能作者で、「當麻」の謡本としては現存最古級になる。この曲では、熊野詣からの帰途に當麻寺に参詣した僧たちが、かつて中将姫の前に現われた化尼と化女から、念仏の功德や、當麻曼荼羅の謂われを聞く。化尼と化女が雲に乗って消えた後、中将姫の精魂が現れ、阿弥陀の浄土と念仏を讃えて舞う。

企画チケット

① アクリルキーホルダー付きチケット

曼荼羅に登場する化生童子の、ちょっと”シュールな”イラストがキーホルダーに！

料金：1,800 円(税込)

販売プレイガイド：ローソンチケット

販売期間：2022 年 5 月 23 日(月)～7 月 15 日(金)

※数量限定での販売となります。

※アクリルキーホルダーは会期中、会場特設ショップで引換。

※本展観覧券とアクリルキーホルダー引換券の2枚発券。

※会場価格 660 円(税込)。ただし、本チケットが完売の場合、会場での販売はありません。

違う絵柄(蓮池に浸かっている化生童子)のキーホルダーも会期中会場にて価格 660 円(税込)で販売予定。



當麻曼荼羅(部分)



化生童子

當麻曼荼羅に表される極楽浄土の蓮池の中などに見える、赤子の姿の子どもたち。往生者が、極楽浄土に生まれてきたときの姿だと言われています。

② 研究員レクチャー付き！夜間特別鑑賞チケット

料金：2,500 円(税込)

販売プレイガイド：イープラス

販売期間：2022 年 5 月 23 日(月)～7 月 15 日(金)

限定枚数：各 90 枚(先着順)

★特典① 奈良国立博物館・研究員によるレクチャーをご聴講いただけます。

★特典② 閉館後の展示室を貸し切り、2 時間ゆったりご観覧いただけます。

実施日程

1. 2022 年 7 月 22 日（金）午後 5 時～8 時 担当＝北澤 菜月（奈良国立博物館学芸部主任研究員）
2. 2022 年 7 月 23 日（土）午後 6 時～9 時 担当＝岩井 共二（奈良国立博物館学芸部美術室長）

※上限に達し次第、販売終了します。

※東新館にて開催する「わくわくびじゅつギャラリー はっけん！ほとけさまのかたち」もご観覧いただけます。ただし、「名品展」（なら仏像館・青銅器館）はご覧いただけません。

※当日やむをえず参加できなかった場合は、会期中に 1 回のみ本展をご観覧いただけます。

公開講座

第 1 回 2022 年 8 月 6 日（土）

「貞享本當麻曼荼羅とその周辺」

講師：北澤 菜月（奈良国立博物館学芸部主任研究員）

第 2 回 2022 年 8 月 20 日（土）

「中将姫説話の展開」

講師：日沖 敦子 氏（文教大学文学部日本語日本文学科准教授）

時間：午後 1 時 30 分～3 時（午後 1 時開場）

会場：奈良国立博物館 講堂

定員：各 90 名（事前申込制）。抽選による座席指定制となります。

※詳細は奈良国立博物館公式ホームページにて順次お知らせします。

【募集に関するお問合せ】

読売新聞大阪本社文化事業部 電話：06-6366-1848（平日午前 10 時～午後 5 時）

関連イベント

蓮糸織り体験ワークショップ

中将姫の物語に登場する綴織當麻曼荼羅は、蓮から作った糸を織って作られたと伝わります。このワークショップでは、蓮糸織りについてのご紹介をしたあと、唐招提寺様よりご提供いただいた本物の蓮から糸を繰り出す作業を実際に体験していただき、蓮糸を織り込んだコースターを制作してお持ち帰りいただきます。

日時：2022 年 7 月 31 日（日）

第 1 回：午前 10 時 30 分～12 時、第 2 回：午後 2 時～3 時 30 分

※各回 10 名（事前申込制、申込多数の場合は抽選）

参加費：無料（ただし、本展の観覧券やプレミアムカード等の提示が必要です）

対象：小学校高学年以上

会場：奈良国立博物館 地下回廊

講師：大和 恵子氏（豊前小倉織保存会）

大橋 有佳氏（元興寺文化財研究所）

協力：唐招提寺、科学研究費助成事業基盤研究（C）「藕糸織の基礎的研究-非破壊調査による藕糸織の再検討を中心に」（研究代表者＝富岡優子）

※申込期間等の詳細は、奈良国立博物館公式ホームページにて順次お知らせします。

※新型コロナウイルス感染拡大状況により、内容を変更する場合がございます。

當麻寺における特別公開

裏板曼荼羅御開帳

2022年7月16日（土）～8月28日（日）の全日

曼荼羅堂の国宝・曼荼羅厨子の裏扉が開扉され、秘仏「裏板曼荼羅」がご開帳されます。

曼荼羅堂拝観料：500円（税込）



国宝「東塔・西塔」初層特別開扉

2022年7月16日（土）～8月28日（日）の毎土・日曜日及び祝日

古代の双塔伽藍様式を示す国宝の三重塔（東塔・西塔）を、西塔修理完成後初公開します。

無料

【特別公開に関するお問合せ】

當麻寺奥院 電話：0745-48-2008

〒639-0276 葛城市當麻 1263



本展の報道に関するお問合せ

特別展「中将姫と當麻曼荼羅一祈りが紡ぐ物語」広報事務局（ネネラコ内）

電話：06-6225-7885 FAX：06-7635-7587 E-MAIL：chujohimeten@nenelaco.com

〒531-0072 大阪市北区豊崎 3-15-5 TKビル

〔奈良国立博物館プレスリリース配信について〕

下記にご登録いただくと、プレスリリースなどの情報を随時配信いたします。

登録 URL：https://e.bme.jp/bm/p/f/tf.php?id=narahaku_pr&task=regist



【広報用画像一覧】
貞享本當麻曼荼羅修理完成記念
特別展 中将姫と當麻曼荼羅—祈りが紡ぐ物語—

本展の展示物等の画像を、広報素材としてご提供いたします。
 下記、申込フォームよりお申込ください。

広報画像申込フォーム（WEB）

<https://forms.gle/66bfDr5E67aL2ZZi7>

※難しい場合は申込書に必要事項をご記入のうえ、広報事務局までご送付ください。

■広報画像をご使用の際は、別紙に記載の「画像使用全般に關しての注意」を必ずご確認ください。



【1】 	【2】 	【3】 	
【4】 	【5】 	【6】 	【7】 
【8】 	【9】 	【10】 5月16日以降より提供予定 	【11】 

報道に関するお問合せ

特別展「中将姫と當麻曼荼羅—祈りが紡ぐ物語—」 広報事務局（ネネラコ内）

TEL / 06-6225-7885 FAX / 06-7635-7587 E-MAIL / chujohimeten@nenelaco.com

〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル

【広報用画像申込書】
貞享本當麻曼荼羅修理完成記念
特別展 中将姫と當麻曼荼羅—祈りが紡ぐ物語—

〔画像使用全般に関する注意〕

- 本展広報目的での使用に限ります（会期終了まで）。使用後は、データの破棄をお願いいたします。
- 特別展名、会期、会場、画像・クレジットは必ず記載してください。
- 転載、再放送など、二次使用される場合は別途申請をお願いいたします。
 なお、展覧会終了後の二次使用はできません。
- WEBサイトに掲載する場合は必ずコピーガードを施してください。
- 基本情報、画像使用などの確認のため、ゲラ刷り・原稿段階のものを広報事務局にお送りください。
- 掲載・放送後は、必ず掲載紙（誌）、同録DVDを広報事務局までお送りください。

〔広報画像クレジット一覧〕

番号	クレジット〔指定・作品名・時代・所蔵〕
☐ 1	重要文化財 當麻寺縁起 巻下（部分） 奈良・當麻寺
☐ 2	中将姫像 鎌倉時代（14世紀） 奈良・當麻寺中之坊
☐ 3	国宝 當麻曼荼羅厨子扉 鎌倉時代 仁治3年（1242） 奈良・當麻寺
☐ 4	国宝 當麻曼荼羅縁起 鎌倉時代（13世紀） 神奈川・光明寺
☐ 5	重要文化財 當麻曼荼羅（貞享本） 江戸時代 貞享3年（1686） 奈良・當麻寺
☐ 6	中将姫坐像（厨子入） 江戸時代 延宝9年（1681） 京都・大雲院
☐ 7	称讃浄土仏摂受経 奈良時代（8世紀） 奈良・當麻寺奥院
☐ 8	重要文化財 刺繍阿弥陀三尊来迎図 鎌倉～南北朝時代（13～14世紀） 滋賀・宝厳寺
☐ 9	藕糸織阿弥陀三尊来迎図 隠元隆琦賛 江戸時代 寛文11年（1671） 福岡・福聚寺
☐ 10	金春禅鳳自筆本「當麻」 室町時代（16世紀） 東京・法政大学能楽研究所般若窟文庫 ※5月16日以降より提供予定
☐ 11	メインビジュアル※クレジット不要

貴社名／	
お名前／	
部署／	ご所属／
貴媒体名／	媒体種／
サイトURL／	
掲載号・露出予定日／	月号（ 月 日号）／ 月 日発売予定 ☐ WEBへの転載あり
TEL／	FAX／
E-MAIL／	
媒体プレゼント用チケット／ ☐ 希望（2組4名まで）※1点以上の広報用画像使用必須 ※チケットの発送は2022年6月下旬頃になります	
お送り先／〒	

報道に関するお問合せ

特別展「中将姫と當麻曼荼羅—祈りが紡ぐ物語—」広報事務局（ネネラコ内）
 TEL／06-6225-7885 FAX／06-7635-7587 E-MAIL／chujohimeten@nenelaco.com
 〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル